

鹿児島の地質⑩

紫尾山周辺の地質

地質担当 鈴木 敏之

紫尾山は、北薩地域を南北2つに分ける紫尾山塊の最高峰で、標高が1,067mあります。視界のよい日は頂上からの眺めはよく、霧島をはじめ桜島、開聞岳、天草などの山々が展望できます。

紫尾山周辺の地質は四万十帯北帯の砂岩・頁岩およびその互層からなり、紫尾山西方の堀切峠付近に花崗閃緑岩が貫入しています。

高尾野層群の属する四万十帯は、中生代～新生代古第三紀に堆積した地層からなり、海底が沈降しながら長い期間にわたって堆積物が積み重なったものです。北薩地域に分布する大川層群、高尾野層群、柊野層は、その中の凝灰岩や頁岩から産出する放射虫化石や有孔虫化石



▲紫尾山山頂付近の堆積岩

から中生代白亜紀の地層であると報告されています。

堀切峠からさつま町泊野方面へ南下すると貫入した花崗閃緑岩を見ることができます。主な造岩鉱物は石英、長石、黒雲母、角閃石です。この花崗閃緑岩は貫入時にまわりの砂岩や頁岩に熱変成を与えており、接触部に近いところでは非常に硬いホルンフェルスに変わっています。

また、花崗閃緑岩は風化すると一見シラスと見間違えそうな白いマサ土になります。粘土分が多いものは、通気性や水はけが悪いのですが、安価で、主に街路樹用の土や庭土、学校の校庭の敷土などとして利用されています。



▲泊野川沿いの花崗閃緑岩

鹿児島の植物31 薩摩川内市ため池のスゲ

植物担当 大屋 哲

4月から6月にかけて薩摩川内市のため池やその周辺に生える植物の調査を行いました。その時に見つけたカヤツリグサ科スゲ属の植物を紹介します。

○カサスゲ 果期5～6月

高さは40cm～100cmです。花は先のほうに雄花が直立してつき、下の方に雌花がつけます。果胞（果実の入った袋）は熟すると濃い茶色になります。茶つみの歌にでてくる「すげのかさ」はこのスゲで作ったものと言われていています。蘭傘田池や才原池などの縁に生えていました。



カサスゲ

○アゼナルコ 果期5～6月

株立ちをして高さは40cm～80cmです。花は4～7個つき、上のほうが雌雄性（上部が

雌花、下部が雄花）で下の方は雌性で垂れ下がってつきます。鱗片（果胞につく膜状のもの）がうすい緑色をしています。高原池や江口池などの湿地に生えていました。



アゼナルコ

○ツクシナルコ 果期5～6月

高さ40cm～80cmで、ススキのように大きな株になります。花は4～6個つき、上のほうは雌雄性で、下の方は雌性で垂れ下がります。鱗片が濃い茶色をしているので、アゼナルコより茶色っぽく見えます。小比良池周辺で見られました。



ツクシナルコ

その他、シラスゲ、アオスゲ、アオゴウソ、ゴウソ、タチスゲ、サツマスゲ、ジュズスゲ、ヤワラスゲなども見られました。